

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○令和3年度の標準学力調査で、全学年の偏差値50を目指す。

3. 指標にむけての取組

- 単元構成を工夫し、毎時間の振り返りをさせるとともに、終末段階における習熟度別分割授業を実施する。
- 朝のチャレンジタイムにおける宿題の解説・漢字・MIMを行うとともに、「未来への一歩」を活用した計算力の基礎基本の定着を図る。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移		全国値の正答率を50とした時に対して				
年度	R3年度					
本校(A)	49.4					
嘉麻市(B)	47.0					
(A)－(B)	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
全国正答値との差 (A)－(50)	-0.6	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0	

各学年の推移



5. 各学校における分析

学校全体の平均としては、標準スコアが国語科48.6、算数科50.2であり、国語科に課題がある。

1年生は、MIMの学習において、カードやタブレットを活用した音読やゲームなどに取り組んだ。

他学年については、読み取りを中心とした宿題の解説時間を設け、全員で答え合わせと書き直しができるようにした。また、自分で目標を決め、達成感を味わうことのできる活動として、漢字検定を学期末に2回実施した。

未達成の児童については、隙間時間を利用して漢字指導を行い、漢字認定証がもらえるように目標をもたせた。今後さらに、きめ細やかな個に応じた取組の工夫を行っていく必要がある。

算数科においては、単元テストの全国平均通過率90%以上を目指し、習得が不十分だった問題や誤答の多い問題を中心に、習熟度別で取り組んだことが一定の成果を上げ有効だったと考える。

6. 各学校における今後の取組

○朝の10分間読書を実施〈新規〉

○朝のチャレンジタイムでは、音読・宿題の解説・漢字・MIMを行う。〈新規・継続〉

○国語科で継続的な読解力を育む読み取り時間を全学年で実施〈新規・継続〉

○1・2年生においては、MIMの計画的な実施による初期段階での読みのつまづきの克服と読むことへの意欲向上を図る。〈継続・充実〉

○「未来への一歩」を活用した計算力の基礎基本の定着を図り、未達成の児童を対象とした隙間時間の指導を実施〈新規・継続〉

○算数科における習熟度別授業の実施による全国平均点通過率の向上〈継続・充実〉

○専科等を配置し、複数体制による算数科授業と国語科の読み取り時間を設定〈継続・充実〉

○漢字・算数検定で「読み・書き・計算」の定着や学習意欲の醸成を図る。〈継続・充実〉

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。